



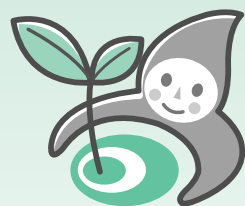
▲市内の小学生、郷土芸能団体、ボランティアなどによって演じられた式典アトラクション「秋田の森、川、海、～豊かなめぐみの循環」



◀▲式典アトラクションでは、4キロ四方にとどろくと言われる綴子大太鼓が迫力ある演奏で、また北秋田市出身の豪風関が大漁旗を振って力強さを添えました



▲寺田知事から感謝状を受ける全国植樹祭のポスター原画の作者・藤本勝繁君（鷹巣南中学校1年）。藤本君の左は大会テーマを考えた信太和仁さん（秋田市）。右はシンボルマーク「森っち」をデザインした市原麻奈美さん（東京都）。右端は森っちと命名した菅真帆さん（湯沢市立秋ノ宮小学校4年）



▶元国連事務次長の明石康さん、作家・西木正明さん、脚本家、作家の内館牧子さんらは、自然豊かなふるさと秋田から生まれた多様な文化を全国、世界に発信してほしいとメッセージを送りました



高堂 理さん

明石 康さん

内館 牧子さん

西木 正明さん

豊かなふるさと秋田を誇りに

「豊かな自然に育まれた秋田の文化」を表現◇プロローグ、アトラクション

◀お野立所を設計した建築家・安藤忠雄さんと、作家で前秋田公立美術工芸短大学長の石川好さんによる「環境デザイントーク」



安藤 忠雄さん

石川 好さん

植樹祭では、記念式典に先立ち、明石康さんなど秋田県出身、ゆかりの著名人が対談形式のプログラムを通してメッセージを発信しました。

* *

建築と環境問題について 環境デザイントーク

■心の中に森をつくって

式典プロローグとしてはじめに行われた「環境デザイントーク」では、世界で活躍する建築家・安藤忠雄さんと、作家で前秋田公立美術工芸短期大学長の石川好さんが植樹祭会場のイメージや、環境問題と建築の関わりについてトークを展開しました。

この中で石川さんは、「植樹祭の情報が全国に発信されることで、日本人に木を植える大切さが伝わっていく。それは自然を育成して次の世代にその心を伝えていくことが大切なことだと思う」と発言。

安藤さんは「日本人の心の中にある自然という心をつかり根付かせていかなければいけないと思う。日本は経済発展を20年から30年ぐらい

続けてきて、日本人の心の中で自然とともに生きてきたということが忘れられていくので心の中に森をつくらばいいと思う」と答えました。

石川さんは安藤さんの言葉を受けて「植樹祭の意義はひよつとしたら、安藤さんのおっしゃるのように日本人の心の中に森を作ることかもしれない。心の中にその気持ちがあれば日本中に森林が自然に増えていくと思う」と会場の参加者に伝えました。

自然豊かなふるさと秋田を語る 水と緑のリレーメッセージ

■多様な秋田の文化を誇りに世界にはばたいて（明石さん）

環境デザイントークに続いて行われた「水と緑のリレーメッセージ」では、広告制作の世界で活躍する高堂理さん（おきむ）を進行役に、旧西木村（現仙北市）出身の作家・西木正明さん、秋田市出身で脚本家・作家の内館牧子さん、旧比内町（現大館市）出身で元国連事務次長の明石康さんがそれぞれの思いを語りました。

明石さんは、「私の子ども時代は、

山にはアケビ、川には魚や沢蟹がたぐさんいて豊かな子ども時代を過ごしたと思う。



明石 康さん

国連の平和維持活動でカンボジアに行ったときにも美しい山がたくさんあった。

しかしその山には政府への反乱軍がいて、そこに暮らす人々は美しい山々に囲まれながら危険と隣り合わせという現実があった」などと自分たちのふるさとが緑に囲まれて安全なこととは非常に恵まれていることを強調しました。

また、若い世代には、地域によって異なることばのなまりなど多様な秋田の文化を誇りに、世界に羽ばたいてほしいとメッセージを送りました。

■秋田の林業技術を世界へ（西木さん）

西木さんは、「首都圏の知人を私のふるさとに案内したとき、『身体じゅうが緑色になりそうだよ』と言われたことがあった。そのぐら



西木 正明さん

い秋田は緑に溢れている。しかし、世界では気象の変わりもあり、砂

漠化が進んでオアシスがどんどん砂漠に飲み込まれているその結果、難民もたくさん生まれてしまっている。木が育たない、花が咲かないといったところに秋田の先人たちが残してくれた植樹や育林の素晴らしい知恵を活用して世界中の緑を増やしていかなければならない」と秋田の林業技術を世界に伝えていくことが大切と訴えました。

■『秋田美人』を育てるためにも森や水を大切に（内館さん）



内館 牧子さん

水がきれいなこと、気持ちのいいところとした気候であること、そして緑と森が豊かなこと

が大きいのではないかと思います。また、秋田の人々が森や水を非常に大切にしていることが森や水が分かっているのではないか。これからも、秋田美人を育てるためには、木や森を大切にすることがある」と秋田の緑と森をみんなで守っていかなければいけないことを伝えました。